

第 5 章 地区別の方針

1. 深谷地区

【地区の特徴】

深谷地区は北部の利根川流域の低地と南部の関東ローム層の台地からなる平坦な地形となっています。

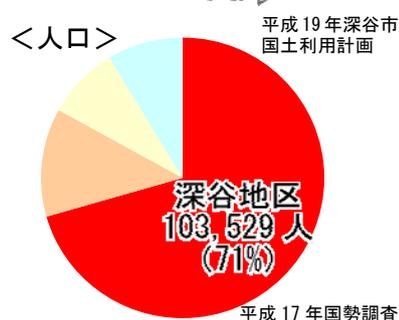
地区内には、街区公園が 51 箇所 (9.39ha)、近隣公園が 11 箇所 (19.53ha) あります。さらに総合公園の仙元山公園、風致公園の青淵公園といった大規模な公園も整備されています。また、その他の公園が 13 箇所 (15.20ha) 整備されています。

まとまった樹林は南部の櫛引の防風林と仙元山に見られるくらいで、全体的に樹林地の少ない地区となっています。また、北部の利根川は地区にとって重要な自然環境を形成している場所であるといえます。

<面積>



<人口>



【深谷地区の緑の推進施策】

■利根川の緑の保全と活用

- ・利根川の河川敷の緑を骨格緑環状形成のための貴重な資源として保全していくとともに、レクリエーション活動などの利用ができるように有効活用を進めます。

■唐沢川、小山川などの緑の保全

- ・唐沢川、小山川、清水川、福川、西川などの河川の環境の保全につとめます。また西川では遊歩道の整備を進め、水と親しめる空間を創出します。
- ・小山川沿に遊歩道を整備し、深谷駅から北に伸びる遊歩道とつなげることで、利根川までの歩行環境を整備します。

■深谷駅周辺の緑化

- ・深谷の玄関であり、レンガ造の建築物として文化的価値の高い深谷駅の周辺を効果的に緑化していくことで、景観の向上を図ります。
- ・ステーションガーデンの花壇や樹木とのつながりを意識して、駅通りをプランターなどを用いて緑化していきます。

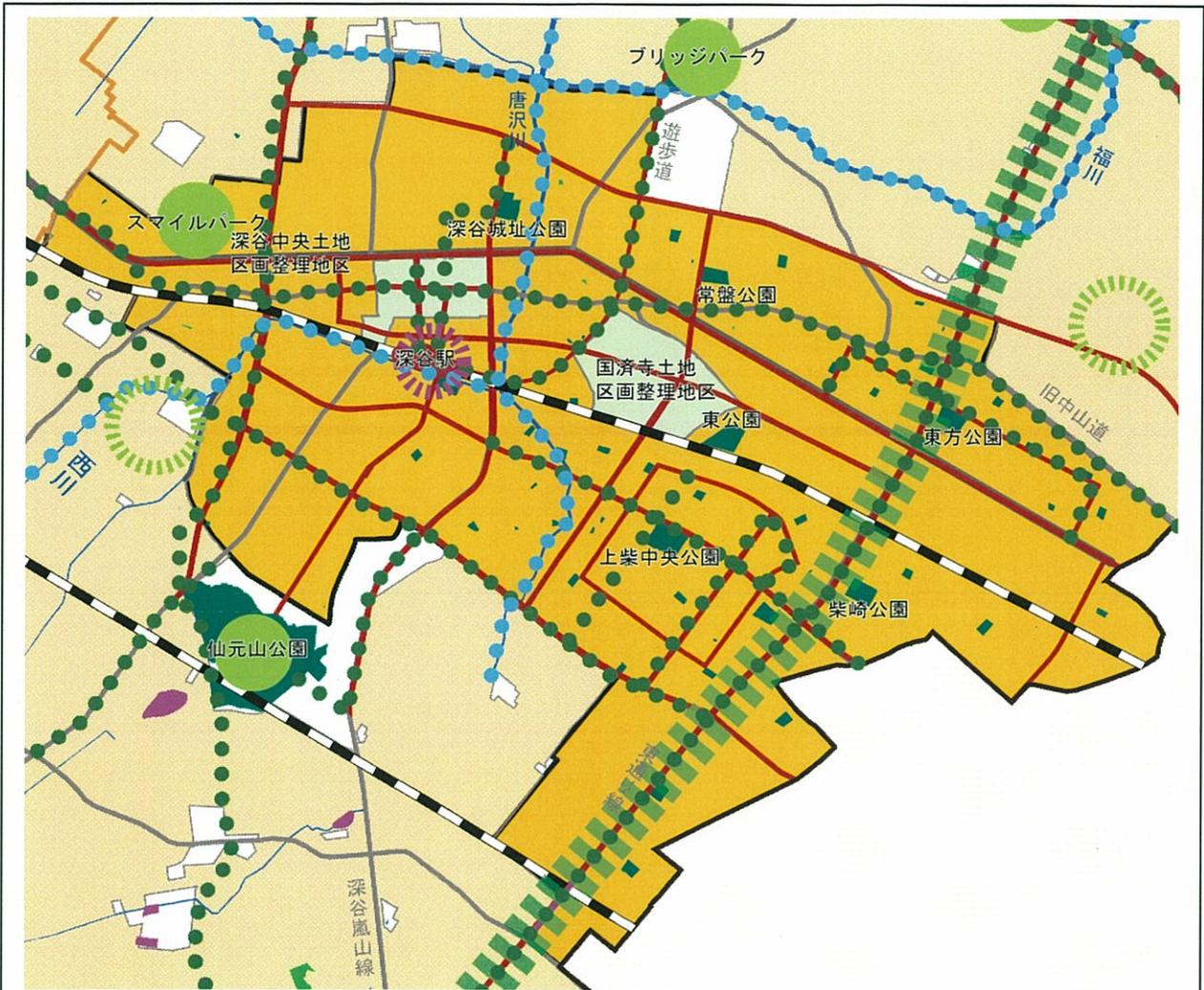
■環境学習の場の充実

- ・現在、既に環境学習の場として利用されている、青淵公園、ふかや緑の王国で学習内容の充実を目指します。

【深谷地区緑地配置方針図】



【深谷地区緑地配置方針図（市街地周辺を拡大）】



凡例

	駅
	鉄道
	高速自動車国道
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	都市計画道路
	河川
	市街地
	農用地区域 (白抜きの部分は区域外)

配置方針

	道路緑軸		水緑軸
	ふるさとの風景を形成する樹林地		
	都市公園		土地区画整理地区
	その他の公園		

※見やすくするために一部の凡例を非表示にしている。

2. 岡部地区

【地区の特徴】

岡部地区は利根川支流の小山川の低地帯と、秩父山系の西端部とに挟まれた台地部が地区の大半を占めています。

地区内の都市公園は街区公園が11箇所(2.19ha)、近隣公園が1箇所(1.06ha)、地区公園が1箇所(2.96ha)あります。さらに歴史公園である中宿歴史公園が地区の北部に整備されています。また、その他の公園が4箇所(3.76ha)整備されています。

まとまりのある樹林地は地区の南西部の丘陵、南東部の櫛挽の防風林として存在しており、その他の地域では小規模な樹林が屋敷林や社寺林として点在しています。

<面積>



平成19年深谷市
国土利用計画

<人口>



平成17年国勢調査

【岡部地区の緑の推進施策】

■櫛挽の防風林の保全と活用

- ・本市でも特徴的な緑である、櫛挽の防風林を保全していくとともに、環境学習の場として活用していきます。

■岡部駅前通りの緑化

- ・岡部駅前通りをシンボルロードと位置づけ、それにふさわしい緑化をしていきます。

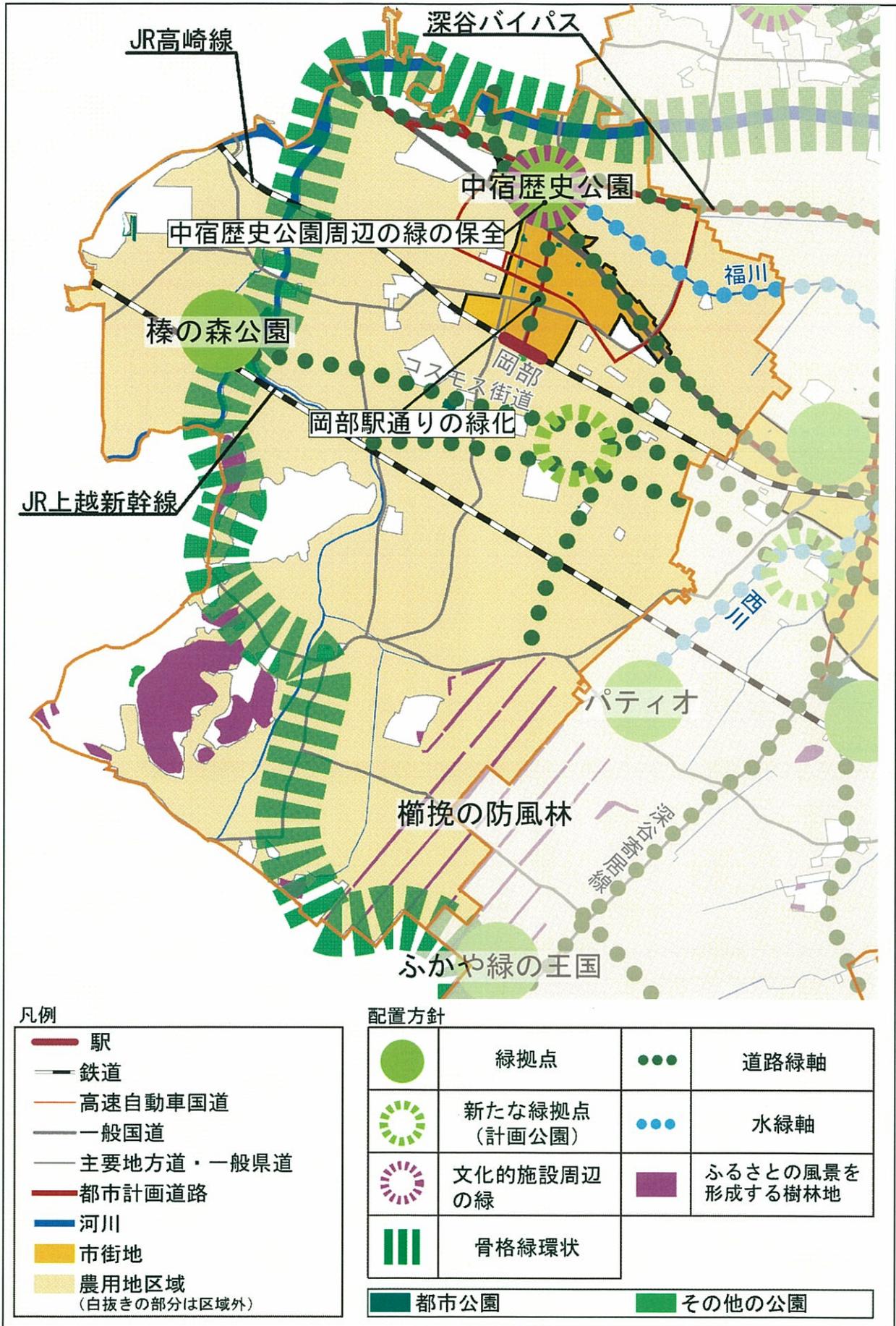
■中宿歴史公園周辺の緑の保全

- ・埼玉県指定史跡である中宿古代倉庫群跡がある中宿歴史公園周辺では、周囲の緑を保全して、良質な景観の形成を目指します。

■民有林の保全

- ・地区内のまとまりのある樹林地を保存樹林等の指定の制度を活用して適切に保全していきます。

【緑地配置方針図】



凡例

	駅
	鉄道
	高速自動車国道
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	都市計画道路
	河川
	市街地
	農用地区域 (白抜きの部分は区域外)

配置方針

	緑拠点		道路緑軸
	新たな緑拠点 (計画公園)		水緑軸
	文化的施設周辺 の緑		ふるさとの風景を 形成する樹林地
	骨格緑環状		
	都市公園		その他の公園

3. 川本地区

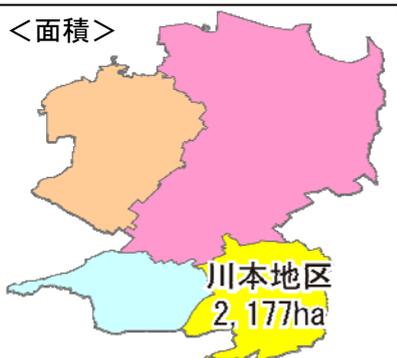
【地区の特徴】

川本地区は中央を流れる荒川の堆積と浸食によって形成された、階段状の地形（段丘）となっています。

地区内の都市公園は街区公園が1箇所（0.42ha）、近隣公園が1箇所（4.86ha）整備されています。都市公園の整備量は他の地域と比較すると少ないですが、サンダリンパーク、埼玉県農林公園などのその他の公園が市内で一番多く、9箇所（33.52ha）整備されています。

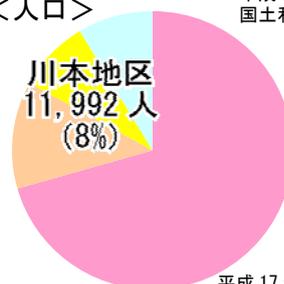
地区内の大部分は農地として利用されており、さらに南部には斜面林や平地林がまとまってあり、豊かな自然環境を形成しています。しかしながら、南部の樹林地は近年の開発により分断化が進んでいます。

<面積>



平成19年深谷市
国土利用計画

<人口>



平成17年国勢調査

【川本地区の緑の推進施策】

■荒川の緑の保全と活用

- ・荒川の河川敷の緑を貴重な資源として保全していくとともに、レクリエーション活動などの利用ができるように有効活用を進めます。

■鹿島古墳群周辺の緑の保全

- ・埼玉県指定史跡である鹿島古墳群周囲の緑を保全して、良質な景観の形成を目指します。

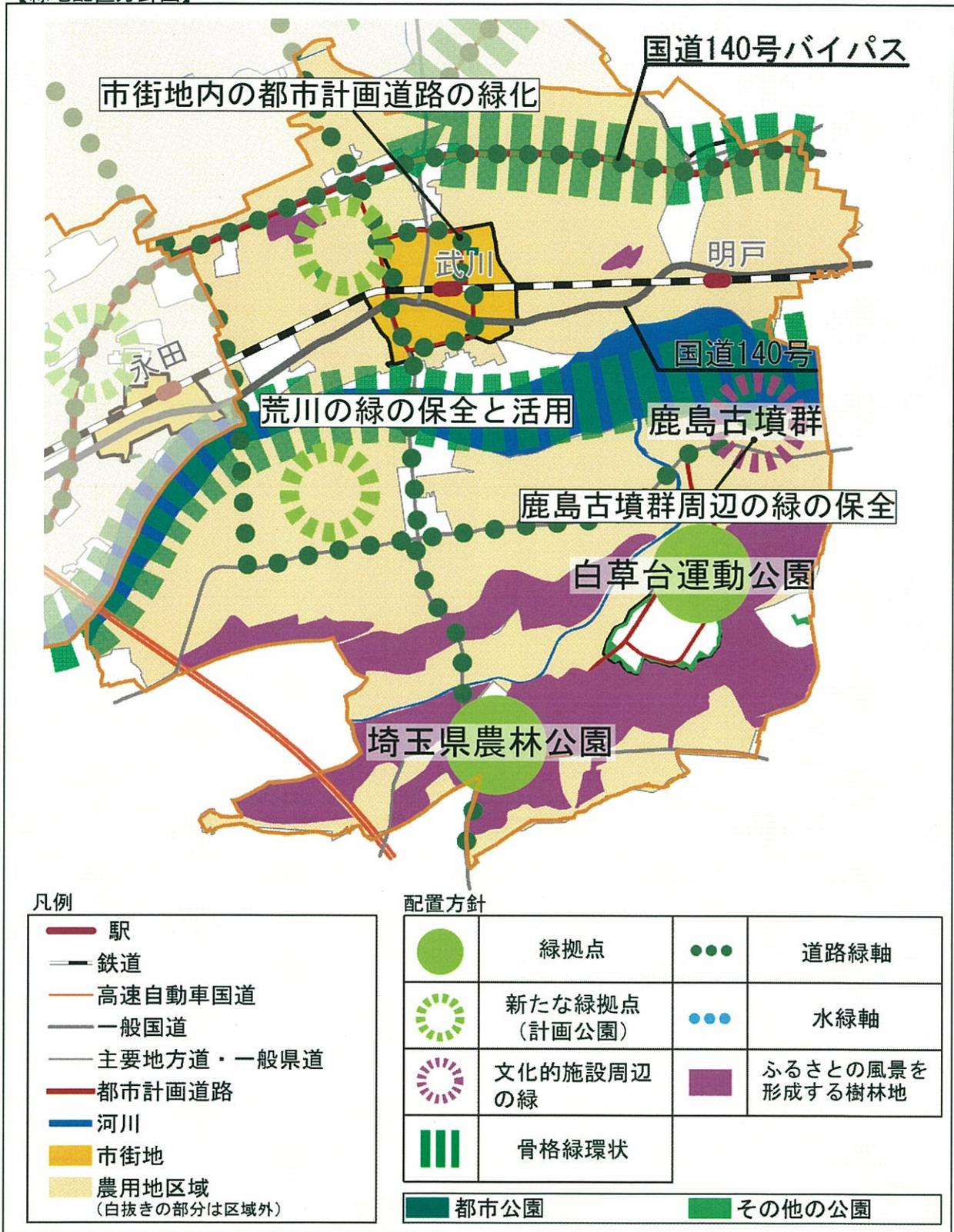
■民有林の保全

- ・地区の南部に広がる樹林地を保存樹林等の指定制度を活用して適切に保全していきます。

■市街地内の都市計画道路の緑化

- ・市街地内の都市計画道路を街路樹などで緑化していきます。

【緑地配置方針図】



凡例

	駅
	鉄道
	高速自動車国道
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	都市計画道路
	河川
	市街地
	農用地区域 (白抜きの部分は区域外)

配置方針

	緑拠点		道路緑軸
	新たな緑拠点 (計画公園)		水緑軸
	文化的施設周辺の 緑		ふるさとの風景を 形成する樹林地
	骨格緑環状		
	都市公園		その他の公園

4. 花園地区

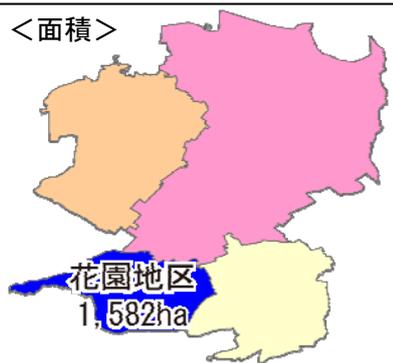
【地区の特徴】

花園地区は西部の鐘撞堂山付近では傾斜のある地形となっていますが、その他は概ね平坦な地形となっています。

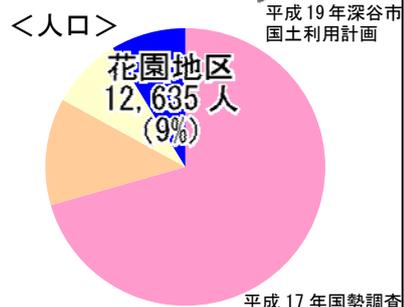
地区内の都市公園は街区公園が3箇所(1.38ha)、近隣公園が1箇所(2.77ha)、地区公園が1箇所(4.68ha)あります。またその他の公園が4箇所(0.66ha)整備されています。

地区内の土地利用の大部分は農地が占め、その農地では花や植木の栽培が盛んに行われており生産量は全国有数のものとなっています。今後はこの花や植木を利用して産業を活性化し、さらに緑化を積極的に推進し緑の保全に努めるといった「ふかや緑の回廊」が構想されています。

<面積>



<人口>



【深谷地区の緑の推進施策】

■荒川の緑の保全と活用

- ・荒川の河川敷の緑を貴重な資源として保全していくとともに、レクリエーション活動などの利用ができるように有効活用を進めます。

■ふかや緑の回廊構想

- ・地区を南北に縦断する県道花園本庄線の沿線を利用して、地場産業及び地域の貴重な資源である植木や花を活かした事業を展開していきます。

■鐘撞堂山周辺の緑地の保全と活用

- ・鐘撞堂山周辺の緑地を確実に保存するとともに、四季を通して様々な自然とふれあえる場として更なる活用を検討していきます。

■小前田駅の南北の通りの緑化

- ・小前田駅の南北に通る道路を緑化していきます。

【緑地配置方針図】

